

第 67 回 朝鮮語教育学会 例会

日時 : 2015 年 9 月 12 日 (土) 10:00~18:00

会場 : 早稲田大学戸山キャンパス (文学学術院) 36 号館

162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1 (東西線早稲田駅 B2 出口 徒歩 5 分)

参加費 : 会員無料 (非会員の方は 500 円)

例会スケジュール

10:00~12:00 分科会

- | | | |
|-------------------------------|------------|--------------|
| 第 1 会場 (36 号館 6 階 681 教室) | 類似表現分科会 | (世話人 : 金京子) |
| 「-고 나서 (ko naso) についての教育」 | | |
| 第 2 会場 (36 号館 6 階 682 教室) | 第二言語習得論分科会 | (世話人 : 印省熙) |
| 「韓国語入門から中級までの授業紹介」(報告者 : 李淑炫) | | |
| 第 3 会場 (36 号館 7 階 3703 教室) | 統計分科会 | (世話人 : 斉藤信浩) |
| 「回帰分析による研究手法の紹介」 | | |

13:00~ 受付開始 (36 号館 6 階 681 教室前)

13:30~18:00 第 67 回例会 第 1 会場 (36 号館 681)

開会挨拶 長谷川由起子代表

世話人会報告

口頭発表 1 孫ミナ (東京外国語大学博士後期課程)
(13:45-14:45) 韓国語教育における韓国語の ‘-기(가) 쉽다’ と日本語の ‘~しやすい’ の考察

口頭発表 2 李熙卿 (久留米大学外国語研究所)
(15:00-16:00) 대학 교양 한국어 수업에서의 통합 교수 방안

口頭発表 3 中川正臣 (目白大学・東海大学)
(16:15-17:15) 交流授業を通じて学習者は何を学んでいるのか

閉会挨拶

18:30~ 懇親会 : 新大久保「大韓民国」 一般 3500 円, 学生 3000 円

東京都新宿区新大久保 1-12-27 1F (TEL:03-5292-4448)

(JR 新大久保駅より歩 8 分, 都営大江戸線東新宿駅 A1 出口より歩 2 分)

* 当日, 会場にて参加を承ります

発 表 要 旨

口頭発表1 孫ミナ（東京外国語大学博士後期課程）

韓国語教育における韓国語の‘-기(가) 쉽다’と日本語の「～しやすい」の考察

【要旨】本発表は韓国語の教育の観点から韓国語の‘-기(가) 쉽다’と日本語の「～しやすい」がどのような点で類似しており、どのような点で相違しているのかについて考察し、各々のもつ意味を明らかにすることを目的とする。韓国語の‘-기(가) 쉽다’と日本語の「～しやすい」は両者ともに①「～することがたやすい」、「～が簡単に出来る」という意味と②「ともすればそうなる傾向がある」、「そうなりがちである」という意味を表している。しかし、日本語の「～しやすい」が①の意味を表す場合、接尾辞的に働きかけ概ね動詞と結合することが出来るのに対し、韓国語の‘-기(가) 쉽다’が①の意味を表す場合は結合することが出来る動詞に制限があり、‘-기 좋다’あるいは‘-기 편하다’と結合し①の意味を表していると考えられる。韓国語の‘-기(가) 쉽다’が②の意味を表す場合、肯定的意味より否定的な状態または状況への「そうなりがちである」、「可能性が高い」という意味を表しており、おおむね‘-기 심상이다’あるいは‘-기(가) 일쑤이다’に置き換えることが出来る。

口頭発表2 李熙卿（久留米大学外国語研究所）

대학 교양 한국어 수업에서의 통합 교수 방안

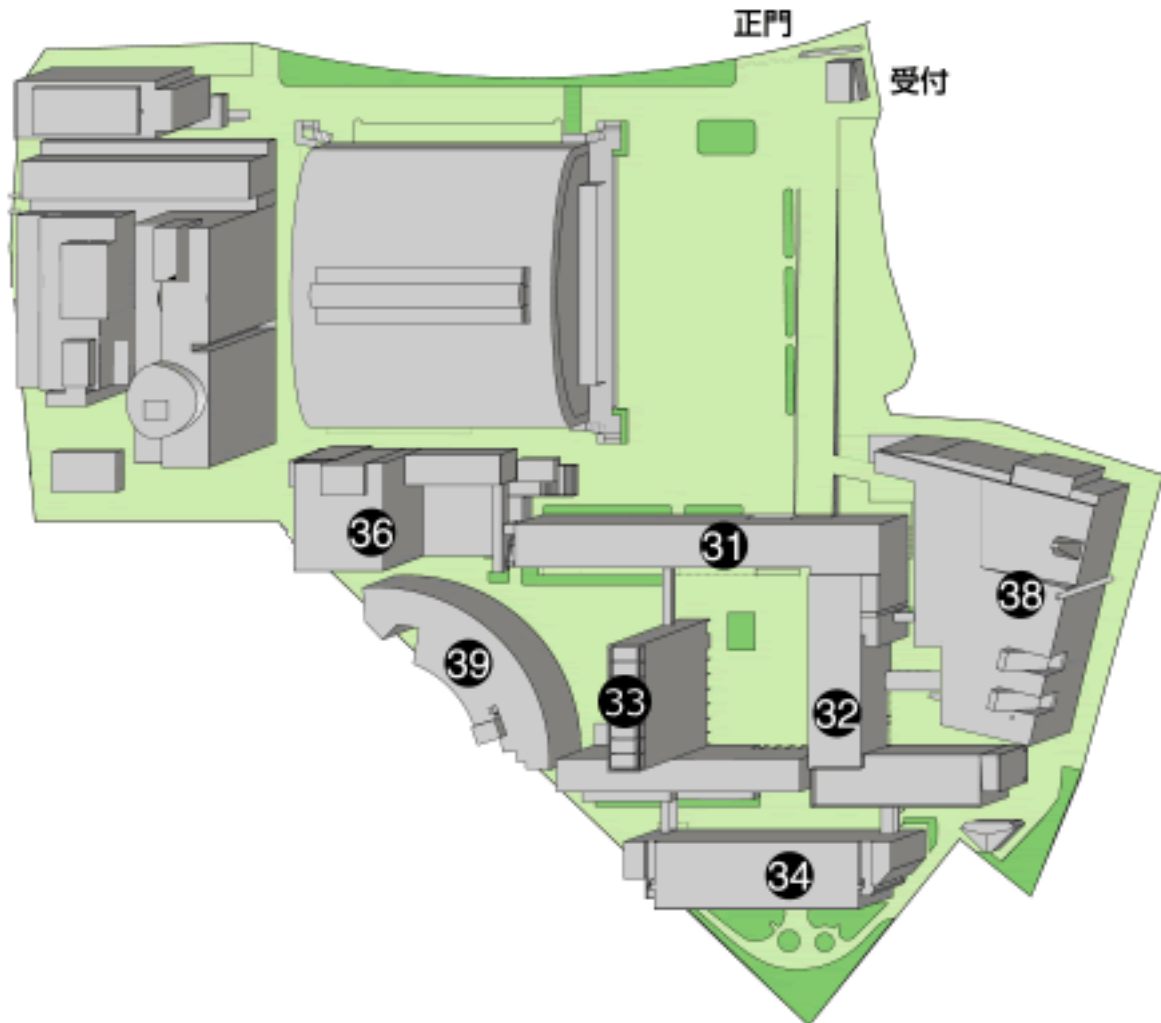
【要旨】 최근 몇 년 전부터 문부성에서는‘글로벌 인재’ 육성을 위해 힘을 기울이고 있다. 그 구체적인 목표 중의 하나로 ‘어학력과 커뮤니케이션 능력’을 들고 있는데, 문부성의 이러한 교육 방침을 따르게 된다면 한국어 교육 또한 커뮤니케이션 능력 향상을 목표로 한 교육이 이루어져야 할 것이다. 그러나 한 설문조사에 의하면 대학에서의 교양 한국어 교육은 아직까지 교사가 중심인 문법과 독해 중심의 교육이 더 많이 이루어지고 있다고 한다. 본고에서는 문법과 독해 중심의 교육에 그치지 않고 학습자의 커뮤니케이션 능력 향상을 목표로 하여 말하기, 듣기, 읽기, 쓰기의 네 기능으로 연계하면서 통합적으로 교육하는 실제적인 수업의 예를 제시하고자 한다.

口頭発表3 中川正臣（目白大学・東海大学）

交流授業を通じて学習者は何を学んでいるのか

【要旨】本稿は、韓国語学習者が「留学生との交流活動を通じて得た学び」を明らかにすることを目的とする。近年、外国語教育では、社会構成主義を理論的根拠とした「真のコミュニケーション活動を通じた学び」が提起され、言語や文化に関わる能力は勿論、協働力や高次思考力など、コミュニケーションを成り立たせる総合的コミュニケーション能力の向上を目指した授業が提案されている。真のコミュニケーション活動を取り入れた授業は、ロールプレイなどの擬似的活動を超え、学習目的の明確化を図りながらコミュニケーション活動の中で能力を習得していくことを可能にする。しかし、一方で、韓国語教育においては実践研究の少なく、学習者がコミュニケーション活動の中で何を習得しているのかは明らかになっていない。本稿では学習者と韓国語母語話者の談話分析や振り返りシートの記載内容、学習者に対するインタビューの結果をもとにその実態を明らかにし、今後の課題を示す。

会場地図（早稲田大学 戸山キャンパス：36号館）



東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩 3 分

JR 山手線 高田馬場駅から徒歩 20 分

東京メトロ 副都心線 西早稲田駅から徒歩 12 分

西武新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分

昼食場所：飲食持ち込みの場合、2階（36号館の入り口）のラウンジが利用可能です。

夏季休暇中の週末のため、学内の生協等の飲食施設が空いていないことがあります。

お問い合わせ

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学留学センター 朝鮮語教育学会 事務局（齊藤信浩研究室気付）

E-mail: chousengokyouiku@yahoo.co.jp